

平成25年度 全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果

I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生、中学校3年生
- 3 実施教科 国語、算数・数学
- 4 調査内容 ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - A：「知識」など基礎学力に関する問題
 - B：思考力など「活用」に関する問題②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 平成25年4月24日（火）
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象

全国（国公立小学校）	20,746校	（実施率99.2%…1,121,164人）
秋田県公立小学校	228校	（実施率99.6%……8,178人）
全国（国公立中学校）	10,711校	（実施率95.1%…1,070,833人）
秋田県公立中学校	122校	（実施率100%……8,720人）

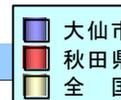
Ⅱ 教科に関する調査結果

1 概要

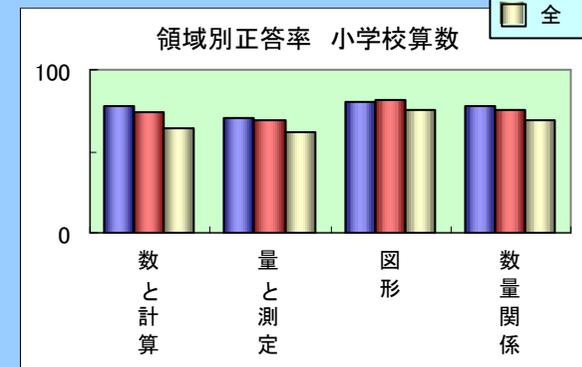
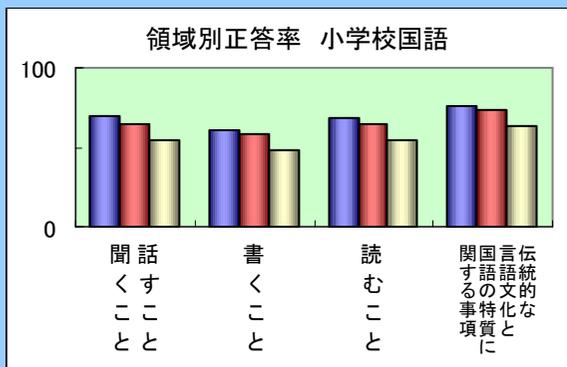
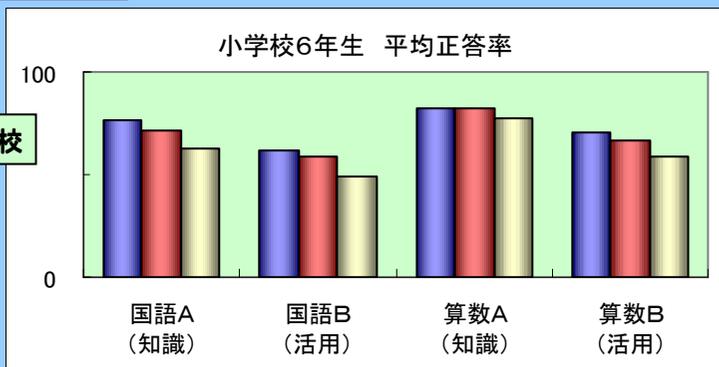
- 小学校・中学校共に全ての教科において全国の平均正答率を上回っている。また、本県の平均正答率との比較においても同程度もしくは上回っており、概ね良好な状況にある。
- 小学校・中学校共に活用に関わるB問題において、全国及び本県の正答率を上回っていることから、各学校における組織的な研究体制のもと、小・中連携による9年間を見通した指導により、児童生徒の主体的な学習が進められ、思考力、判断力、表現力等が育成されてきた成果であると捉えている。
- 領域別正答率でみると、小学校・中学校共に算数・数学の「図形」の領域に、中学校国語の「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。

2 結果

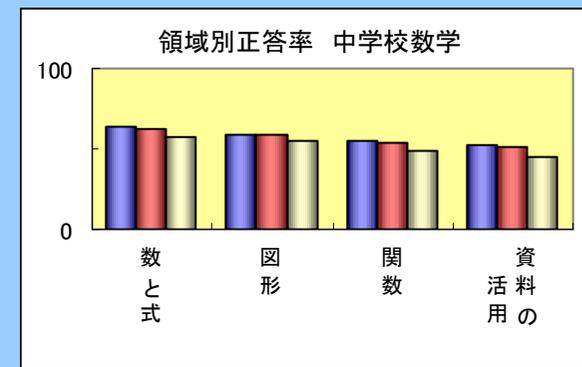
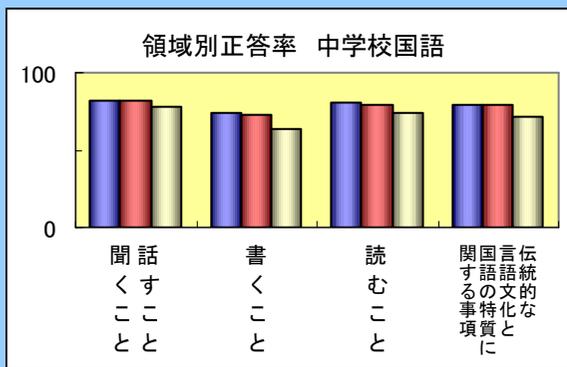
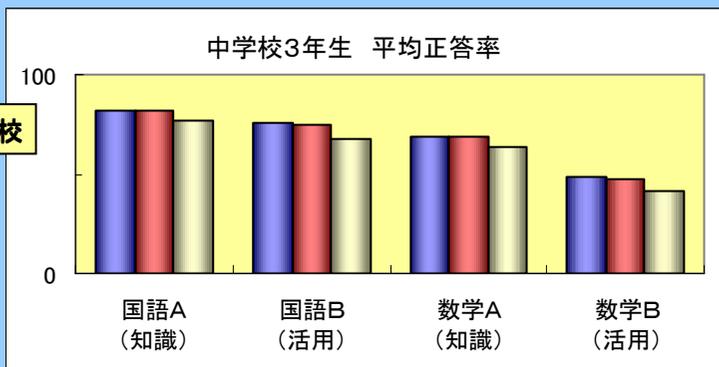
【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況



小学校



中学校



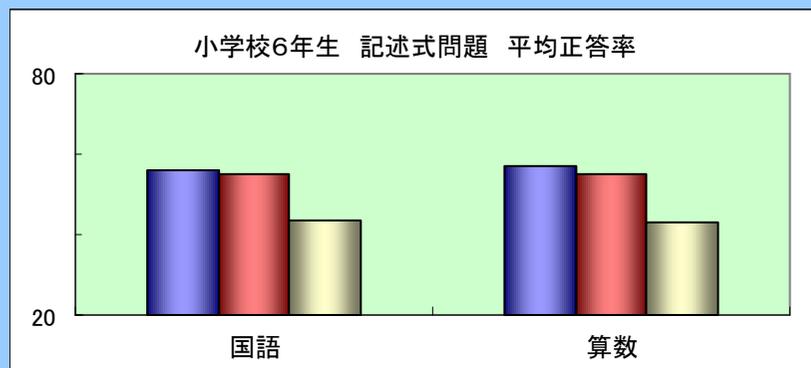
Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

1 傾向

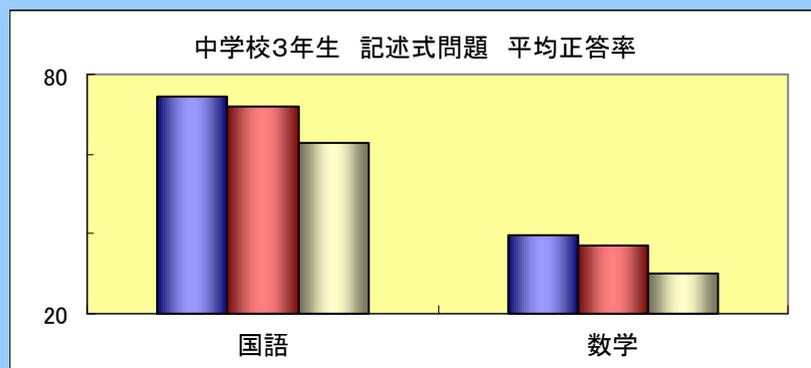
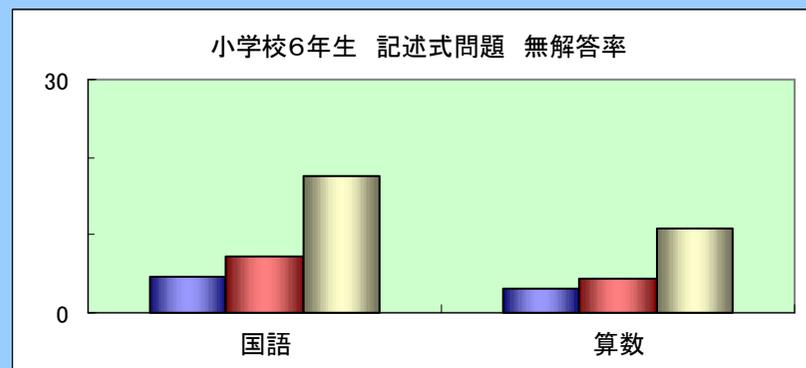
◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

- 小学校・中学校共に全教科で無解答率が低い。
- 記述式の問題でも正答率が高く、全国及び本県平均を上回っている。また、無解答率も低く、小学校国語と中学校数学では国や県との差が広がってきている。
- 学力調査結果がよくなかった児童生徒の割合が相対的に少ない。

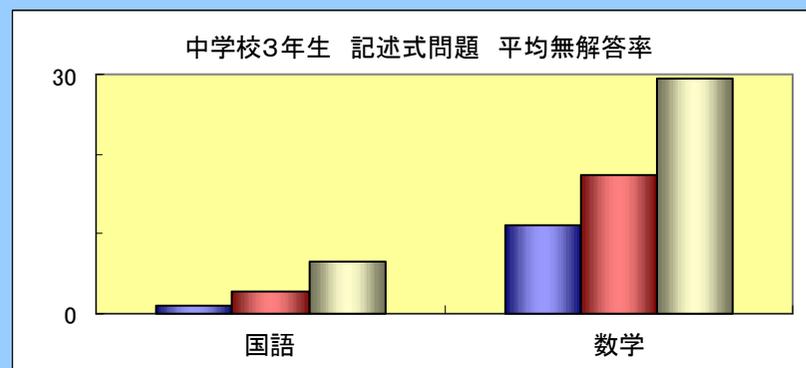
【資料2】 記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校



中学校



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

○児童生徒は基本的な学習習慣を身に付け、進んで意見を書いたり、発表したりするなど意欲的に学習に取り組んでいる。

○難しい問題にも時間いっぱい取り組んでいる児童生徒が多い。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

○基礎テストや放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。

○チームティーチングや少人数指導などの効果が表れている。

③ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

○継続的な読み聞かせや読書活動を推進している。

○小学校における教科担任制の導入、幼保・小・中・高・大など異校種間の連携・交流などにより学習活動の充実を図っている。

○教育専門監の活用による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

④ 県や市が各学校の取組を支援する施策を推進している。

○文部科学省指定事業や県の少人数学習推進事業、教育専門監制度、学力向上推進班による単元評価問題など、国や県の施策を積極的に活用している。

○学校支援地域本部事業などにおいて、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。

○市PTA連合会を通じて、学力向上に向けた取組について保護者への理解・啓発を図っている。

○市独自の施策を推進している。

- ・心ふれあうさわやか大仙事業「中（小）学生サミット」（あいさつ、生活習慣の確立、環境教育の推進、被災地支援・交流活動）

- ・秋田大学、国際教養大学、県立高等学校等との交流・連携

- ・体験的学習の時間支援事業実施

- ・学校生活支援員、日本語指導支援員等の配置

- ・学力向上推進委員会の開催（学力調査結果分析、改善の視点提示、フォローアップシート作成）

- ・市教職員研究集会、職務別等研修会の開催

- ・学校訪問の実施（教育委員等による訪問、教育長等による訪問、指導主事訪問 など）

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

- ①「知識」に関する問題については、全国の結果に比べて良好であるが、小・中学校共に国語の「言語についての知識・理解・技能」中学校数学の「数学的技能」「数量や図形などについての知識・理解」において、国及び県の平均正答率を下回る問題があり、基礎的・基本的な内容の習得の徹底を図る必要がある。
- ②「活用」に関する問題については、全国や県の結果に比べて良好であるが、小学校国語では平均正答率40%未満で、平均正答率の学校間格差が94%の問題もあるなど、学校間格差の大きい問題が多い。中学校数学では、平均正答率40%未満の問題が16問中6問ある。
- ③学力向上推進委員会が「本市の課題と改善に向けて」で提示した取組の提案や、フォローアップシートを有効に活用し、授業改善に向けた取組を一層推進する必要がある。

課題が見られた活用に関する問題例（国語）

- 「編集会議での町田さんと山下さんの意見を受け、「下書きの一部」の「2 打ち上げ花火の種類」と「3 花火師の小野さんの声」の「イ つくり出す伝統」の両方から内容をとり上げて書くこと。
- 取り上げた内容について、あなたが考えたことを具体的に書くこと。
- 書き出しの文に続けて、八十文字以上、百字以内はまとめて書くこと。なお、書き出しの文は、字数にはふくみません。

町田さん 「編集会議」に合う内容を書いたほうが良いと思うわ。書き出しの文（「打ち上げ花火は、…伝統といえます。」）は、「歴史」に注目し、「1 打ち上げ花火の歴史」の内容をまとめているわね。

山下さん それに続く内容は、「現在」の打ち上げ花火に注目し、「2 打ち上げ花火の種類」と「3 花火師の小野さんの声」の「イ つくり出す伝統」の中に書かれている。現在における打ち上げ花火の形や色、打ち上げるときのかぶりを取り上げて書いたほうがいいね。そして、最後に考えたことをまとめて書いてらうかな。

打ち上げ花火は、およそ400年もの歴史をもった、日本のすばらしい伝統といえます。

【小学校国語B2三】
 全国平均正答率 17.8%
 県平均正答率 27.5%
 ○複数の内容を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く。

80字

100字

※上の原稿用紙は下書き用紙で、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※◆の印から書きましょう。どちらで行を変えないで、続けて書きましょう。

三 今村さんたちは、「4 まとめ」の「C」について、「編集会議での町田さんと山下さんの意見」を受け、書き出しの文に続く内容を考えました。あとの条件に合わせて書きましょう。

【中学校国語A1二】
 全国平均正答率 54.7%
 県平均正答率 58.8%
 ○話し合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する。

- 1 話し合いの目的を確認する役割。
 - 2 考えの理由を明確にする役割。
 - 3 発言の内容を要約する役割。
 - 4 様々な意見をまとめる役割。
- 二 場面①で、山田さんは司会の役割を果たすために、①の中から③を選びます。
- 1 一 総部「なぜ、そう思うのですか」という司会1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

【話し合いの一部】

南さん 長井さん 「お話しより前に、「学校紹介クイズ」をした方がよいと思います。」

長井さん 「そうですね。」

山田さん 司会

長井さん 「お話しより前に、「学校紹介クイズ」をした方がよいと思います。」

南さん 「そうですね。」

山田さん 司会

長井さん 「お話しより前に、「学校紹介クイズ」をした方がよいと思います。」

南さん 「そうですね。」

山田さん 司会

【プログラムの案】

新入生歓迎会

1. 生徒会長の言葉
2. 合唱（2、3年生）
3. 学校紹介クイズ
4. 花の贈呈
5. お礼の言葉

1 第一中学校の生徒会では、新入生歓迎会のプログラムについて話し合った一部です。司会は、山田さんです。これらを読んで、あとの問いに答

＝国語の課題と改善に向けて＝

■H25年度の調査結果に基づく主な課題

- ・文と文の意味を考えながら接続語を使って内容を分けて書くこと。（小）
- ・目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書くこと。（小）
- ・複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くこと。（小）
- ・話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たすこと。（中）
- ・語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うこと。（中）
- ・修飾語と被修飾語の照応について理解すること。（中）

□主な改善策

- ・日常的な漢字指導の充実、場面に即した多様な語句・語彙指導の工夫を図るとともに、一定の条件下で多様な文章を書く学習を進めたい。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

課題が見られた活用に関する問題例（算数・数学）

【小学校算数A 4】

全国平均正答率 50.0%

県平均正答率 53.9%

○単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している。

4

AとBの2つのシートがあります。



下の表は、シートの上ですわっている人数とシートの面積を表しています。

すわっている人数とシートの面積

	人数(人)	面積(m ²)
A	12	6
B	8	5

どちらのシートのほうがこんでいるかを調べるために、下の計算をしました。

$$A \quad 12 \div 6 = 2$$

$$B \quad 8 \div 5 = 1.6$$

上の計算からどのようなことがわかりますか。次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 1 m²あたりの人数は2人と1.6人なので、Aのほうがこんでいる。
- 2 1 m²あたりの人数は2人と1.6人なので、Bのほうがこんでいる。
- 3 1人あたりの面積は2 m²と1.6 m²なので、Aのほうがこんでいる。
- 4 1人あたりの面積は2 m²と1.6 m²なので、Bのほうがこんでいる。

【小学校算数B 2 (3)】

全国平均正答率 35.2%

県平均正答率 44.4%

○表から数値を適切に取り出して二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述できる。

- (3) 実験3では、おもりの重さを40gにもとし、ふりこの長さを変えて10往復する時間を調べ、下の表にまとめました。

実験3の結果

ふりこの長さ (cm)	25	50	75	100
10往復する時間 (秒)	10	14	17	20

この結果から、次のことがわかります。

ふりこの長さを2倍に変えたとき、10往復する時間は2倍になっていないので、ふりこの長さと10往復する時間は比例していません。

「ふりこの長さを2倍に変えたとき、10往復する時間は2倍になっていない」ことを、上の表の数のど言葉を使って書きましょう。

【中学校数学A 9】

全国平均正答率 13.8%

県平均正答率 13.4%

○関数の意味を理解している。

- 9 下のアからオまでの中に、 y が x の関数であるものがあります。正しいものを1つ選びなさい。

- ア 生徒数が x 人の学校の校庭の面積 y m²
- イ 底面積が x cm²の直方体の体積 y cm³
- ウ 身長が x cmの人の体重 y kg
- エ 自然数 x の倍数 y
- オ 整数 x の絶対値 y

【中学校数学B 4 (1)】

全国平均正答率 32.4%

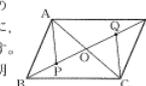
県平均正答率 36.3%

○方針に基づいて証明することができる。

- 4 悠斗さんは、次の問題を考えています。

問題

右の図のように、平行四辺形ABCDの対角線の交点をOとし、線分OB、OD上に、BP=DQとなる点P、Qをそれぞれとります。このとき、AP=CQとなることを証明しなさい。



次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

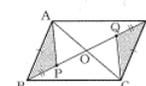
- (1) 悠斗さんは、次のような証明の方針1を考えました。この証明の方針1にもとづいて、AP=CQとなることを証明することができます。

証明の方針1

◇ AP=CQを証明するためには、 $\triangle ABP \equiv \triangle CDQ$ を示せばよい。

◇ $\triangle ABP$ と $\triangle CDQ$ の辺や角について、等しいことがわかるものを探せばよい。まず、平行四辺形ABCDの性質から、 $AB=CD$ がわかるし、仮定から、 $BP=DQ$ もわかっている。

◇ ◇を使うと、 $\triangle ABP \equiv \triangle CDQ$ が示せそうだ。



この証明の方針1にもとづいて、AP=CQとなることを証明しなさい。

=算数・数学の課題と改善に向けて=

■H25年度の調査結果に基づく主な課題

- ・単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解すること。(小)
- ・表から数値を適切に取り出して二つの数量の関係を捉えること。(小)
- ・合同な三角形を書くための条件を理解すること。(小)
- ・関数や確率の意味を理解すること。(中)
- ・事柄を数学的に捉え、他の事象との関係を考えること。(中)
- ・図形の性質を示された方針に基づいて説明すること。(中)

□主な改善策

- ・観察や実験など実感を伴って理解できるようにする活動を取り入れるとともに、根拠を明らかにして的確に表現する活動を取り入れたい。

IV 学習環境に関する調査の結果

1 概要

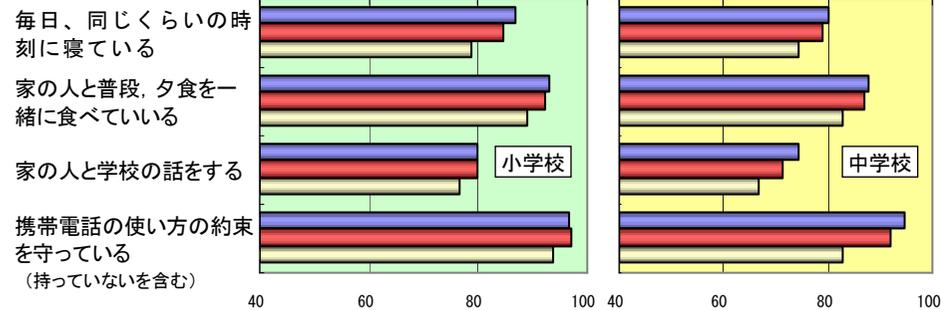
- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や県の平均を上回っており、児童生徒は概ね望ましい生活習慣が形成されていると考えられるが、引き続き実態を踏まえた指導に留意する必要がある。
- 小・中学生共に、夢や目標、規範意識や思いやり、意欲などの道徳性にかかわる質問項目において望ましい状況がみられる。地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して豊かな心が育まれている成果と捉えている。

2 結果

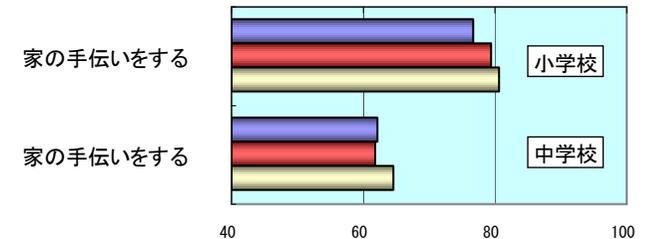
(1) 生活習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

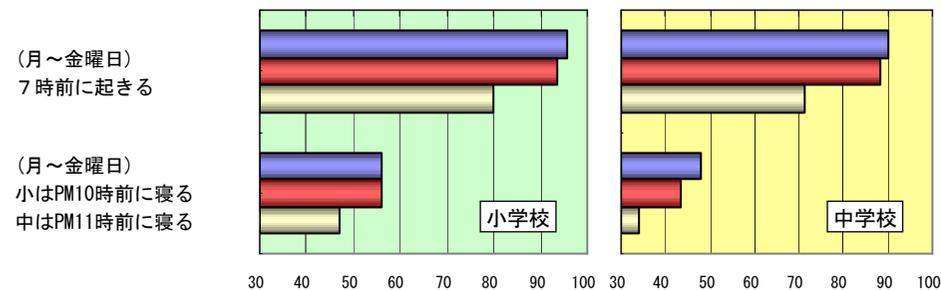
【資料3】生活習慣の様子（小・中学校）



【資料5】家の手伝い（小・中学校）



【資料4】起床・就寝時刻（小・中学校）



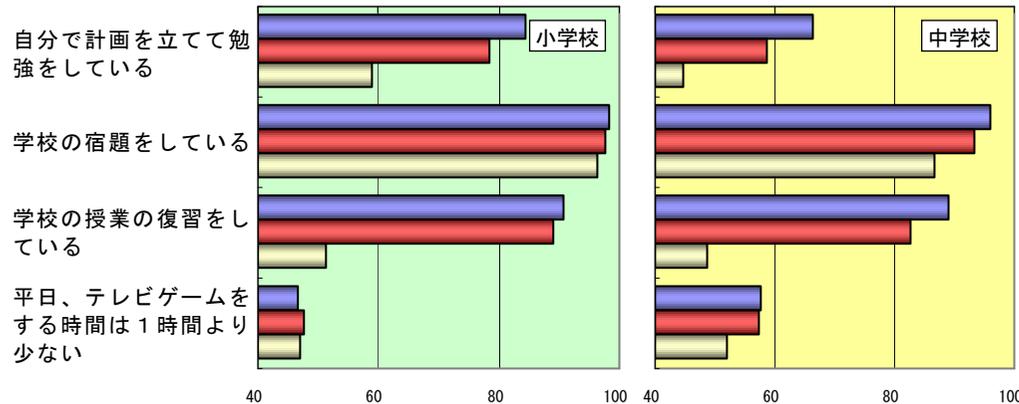
- 小・中学生共に全国や県を上回っている項目がほとんどであり、児童生徒は概ね良好な家庭環境の下に、基本的な生活習慣が身に付いているものと言える。
- 「家の手伝いをする」は、小学生で国や県平均を下回っている。各学校では保護者と連携して手伝いの励行を促している。「ときどきしている」と「あまりしていない」の選択肢には、児童生徒によって選択の判断基準に差がないと思われる。

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(2) 学習習慣

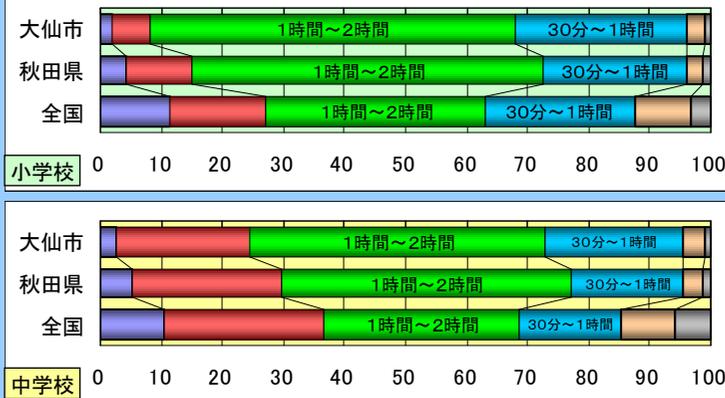
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料6】家庭学習の様子(小・中学校)

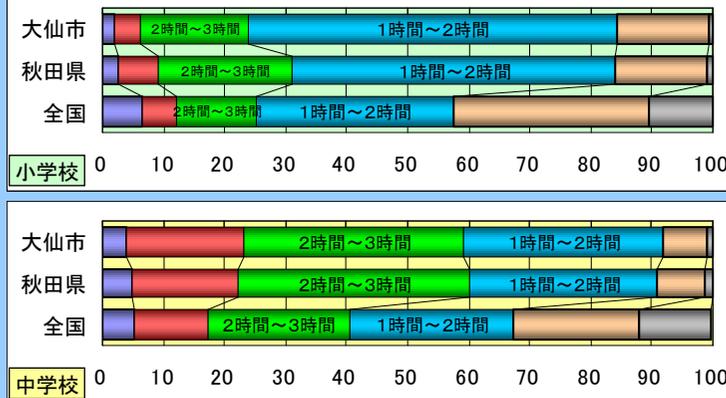


○小・中学生共に、自分で計画を立てて勉強したり、宿題や授業の復習によく取り組んだりしており、自ら学ぶ姿勢が身に付いている。
 ○平日、休日とも学習時間「1～2時間未満」の割合が、小・中学生共に国より多く、県とは同程度であり、「全く学習をしない」割合は国や県より少ない。
 ただし、「3時間以上」は、小・中学生共に国や県より少なく、毎日短時間で継続的に学習している様子がわかる。

【資料7-1】平日の学習時間(小・中学校)



【資料7-2】休日の学習時間(小・中学校)



【資料8】平均学習時間(小・中学校) [単位:分]

小学校	平日	休日
大仙市	110	130
秋田県	110	140
全国	120	110

中学校	平日	休日
大仙市	120	170
秋田県	130	170
全国	120	130

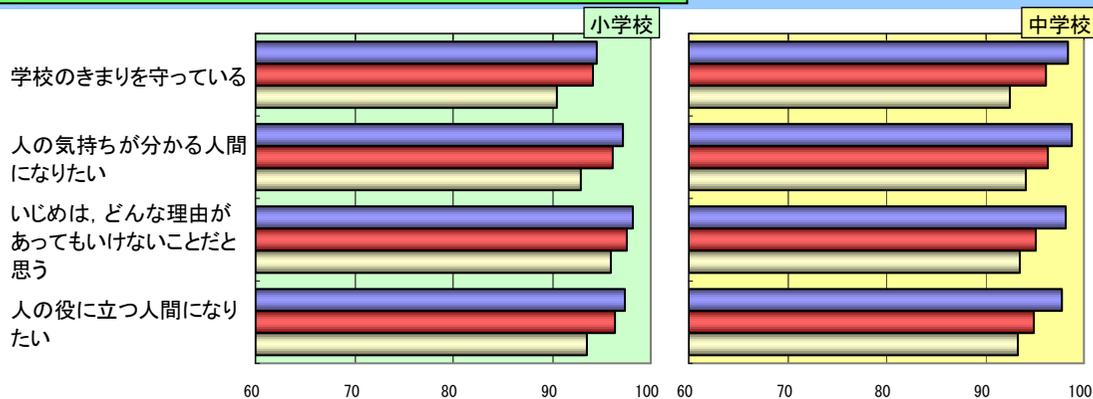
(休日は1時間増)
 3時間以上 2~3時間 1~2時間 30分~1時間 30分未満 全くしない

IV 学習環境に関する調査の結果

2- (3) 規範意識

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

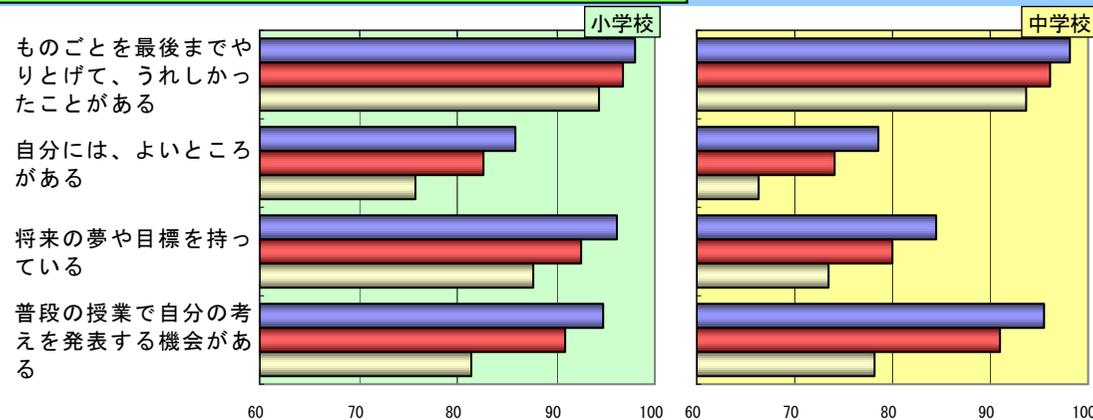
【資料9】規範意識や思いやりの心(小・中学校)



- 学校のきまりをきちんと守り、いじめは許さないなど、規範意識が高い児童生徒の割合が多い。また、人の気持ちが分かり、役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。
- 中学生は3年前(小6時)の調査結果に比べ、規範意識に関する項目への肯定的な回答の割合が伸びている。
- 好ましい家庭生活や地域の温かい関わりの下、各学校における適切な生徒指導や体験活動をはじめとする児童会、生徒会活動等の取組の成果であると捉えている。

2- (4) 達成感や意欲

【資料10】達成感・成就感や意欲(小・中学校)



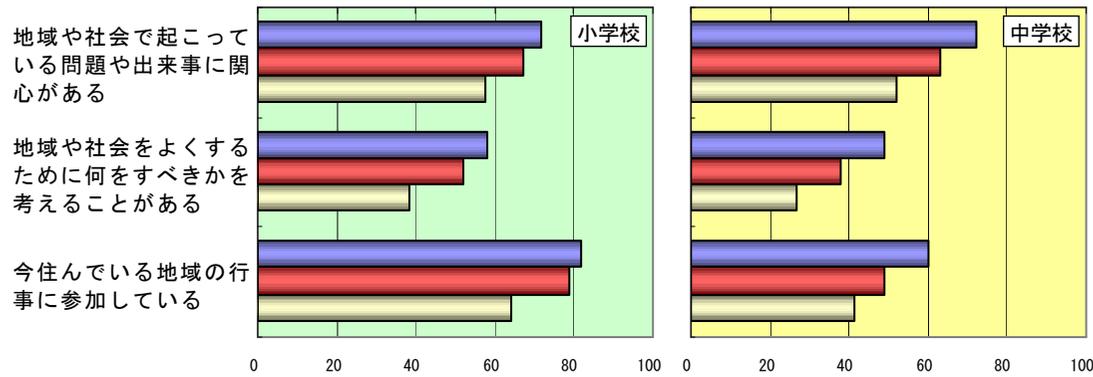
- 全国や県に比べ、多くの児童生徒が達成感や成就感をもち、目標をもって挑戦しようとする意欲が高いと言える。
- 中学生は3年前(小6時)の調査結果に比べ、達成感や意欲において肯定的な回答の割合が伸びている。
- 各校における児童生徒主体の学習活動、体験活動やキャリア教育等の充実に向けた取組の成果であると捉えている。

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(5) 地域への愛着

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料11】地域や社会、人や行事などへのかかわり(小・中学校)

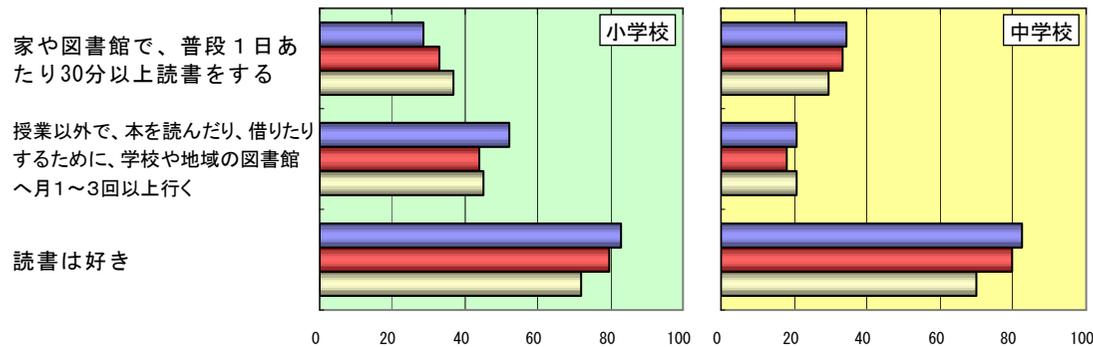


■大仙市
■秋田県
■全国

- 小・中学生共に「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域をよくするために何をすべきか考えることがある」と回答している割合が高い。
- 地域行事への参加の状況は、小・中学生共に国や県よりも上回っている。
- 中(小)学生サミットを通してエコ活動や被災地支援・交流活動等をさらに進めていくとともに、地域行事の担い手としての活動を通して、地域との関わりも深めていきたい。
- 協力的で温かい地域の教育力の一層の充実を期して、引き続き地域との連携による特色ある教育活動の推進と大仙市PTA連合会と一体となった取組を重視していきたい。

2-(6) 読書習慣

【資料12】読書に関する状況(小・中学校)



- 小学生の読書時間が国や県平均を下回っているが、図書館利用や読書が好きであると答えた割合は国や県平均を上回っている。
- 学校質問紙調査の結果によると、中学校では一斉読書の時間を週に複数回設定しているところが100%であり前年度よりも増えている。
- 市では「大仙市っ子読書の日」を制定したり「ふるさと納税文庫」を設置したりなど、読書活動推進計画を実践しているが、さらに充実させていきたい。

V 学習環境と学力調査との相関

1 概要 ○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と4科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

【生活習慣等】

〈相関がみられた主な項目〉

- 毎日朝食を食べている。 ○毎日同じくらいの時刻に寝ている。 ○毎日同じくらいの時刻に起きている。(小学校)
- 家の人と学校での出来事について話している。 ○ふだん1日1時間以上ゲームをする。
- ◎ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。(小学校) ○難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。
- 自分にはよいところがある。 ○学校のきまりを守っている。 ○学校に行くのは楽しい。

【学習習慣等】

〈相関がみられた主な項目〉

- 自分で計画を立てて勉強している。 ◎学校の宿題をしている。 ○学校の授業の復習をしている。
- 授業以外に図書館を利用する。 ◎読書が好きである。 ○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。

【調査問題への取り組み】

〈相関がみられた主な項目〉

- ◎国語で解答を文章で書く問題に最後まで書こうと努力した。
- ◎算数・数学で言葉や式を使って説明する問題に最後まで書こうと努力した。

【授業への取り組み】

〈相関がみられた主な項目〉

- ◎授業で自分の考えを発表する機会が与えられている。 ○原稿用紙2、3枚の文を書くのは難しい。
- 普段の授業で生徒の間で話し合う活動をよく行っている。(中学校) ○自分の考えを他の人に説明したり文章に書くことは難しい。
- ◎国語の授業で考えの理由が分かるように書いている。(中学校) ◎国語の授業の内容がよく分かる。(小学校)
- ◎算数・数学の授業の内容がよく分かる。 ◎算数・数学の解き方が分からないとき諦めずにいろいろな方法を考える。
- ◎公式やきまりを習うときその理由を理解しようとしている。 ○算数・数学でもっと簡単に解く方法がないか考える。

V 学習環境と学力調査との相関

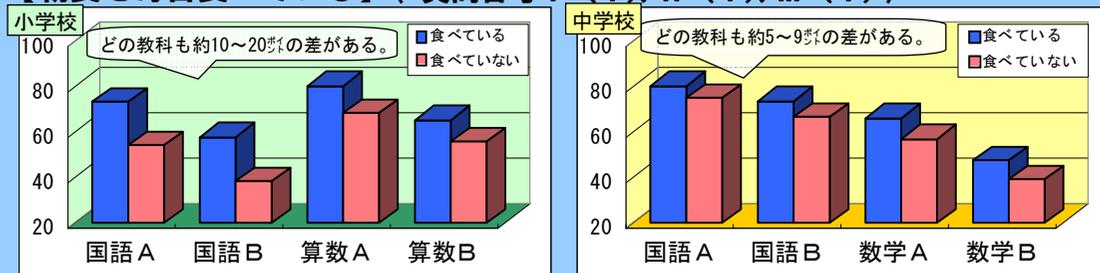
2 相関

2-(1) 家庭での生活

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と
(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

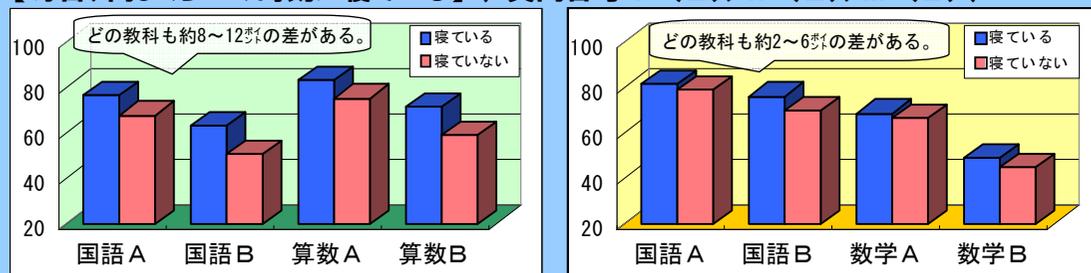
【資料13】

【朝食を毎日食べている】〈質問番号Ⅰ-(1)、Ⅱ-(1)、Ⅲ-(1)〉



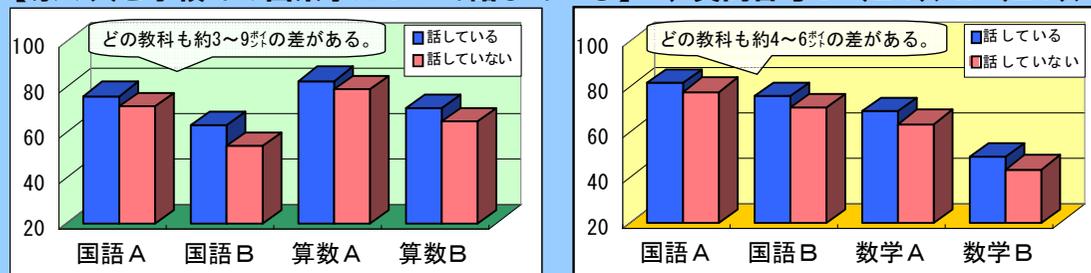
○朝食を毎日食べていますかという質問に、「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高く、小学校の方が相関が顕著である。

【毎日、同じくらいの時刻に寝ている】〈質問番号Ⅰ-(2)、Ⅱ-(2)、Ⅲ-(2)〉



○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますかという質問に、「寝ている」「どちらかといえば寝ている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高く、小学校の方が相関が顕著である。

【家の人と学校での出来事について話している】〈質問番号Ⅰ-(24)、Ⅱ-(21)、Ⅲ-(31)〉



○家の人と学校での出来事について話をしていますかという質問に、「話している」「どちらかといえば話している」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

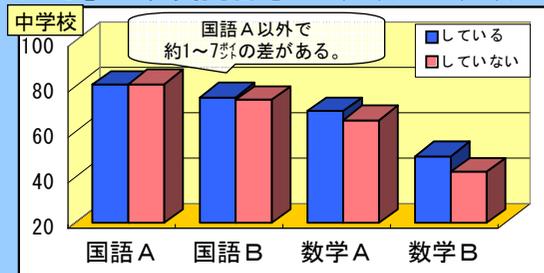
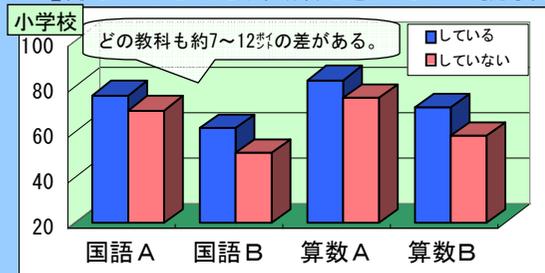
V 学習環境と学力調査との相関

2-(2) 意欲、規範意識等

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と
(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

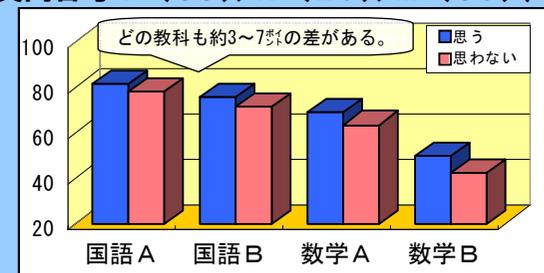
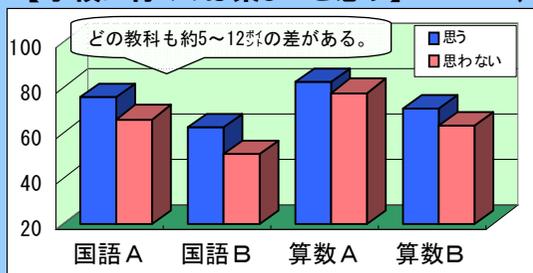
【難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している】 < 質問番号 I-(5)、II-(5)、III-(5) >

【資料14】



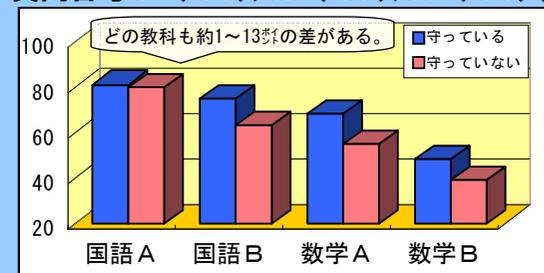
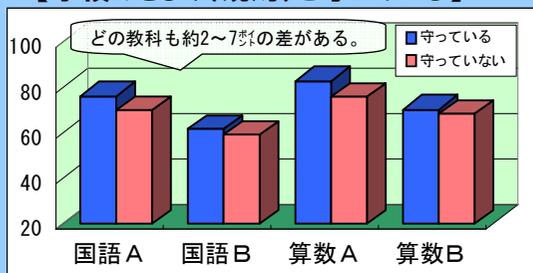
○ **難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか**という質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、全ての教科で平均正答率が同程度か高い。特に小学生で相関が顕著である。

【学校に行くのは楽しいと思う】 < 質問番号 I-(35)、II-(28)、III-(38) >



○ **学校に行くのは楽しいと思いますか**、という質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【学校のきまり(規則)を守っている】 < 質問番号 I-(44)、II-(41)、III-(44) >



○ **学校のきまりを守っていますか**という質問に、「守っている」「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

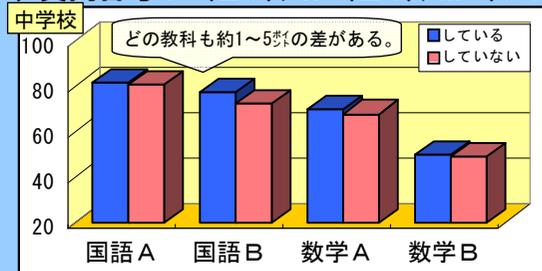
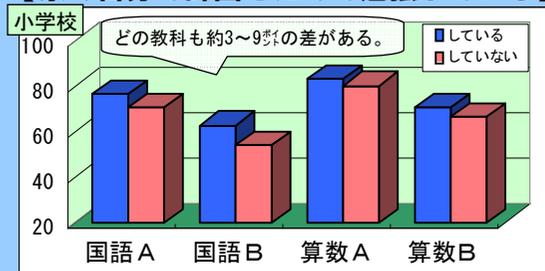
V 学習環境と学力調査との相関

2-(3) 家庭学習の習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と
(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

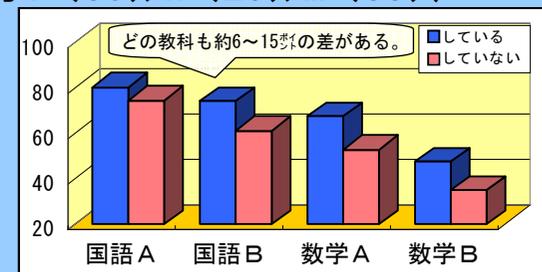
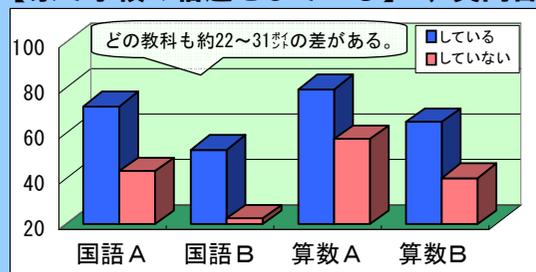
【資料15】

【家で自分で計画をたてて勉強している】〈質問番号Ⅰ-(29)、Ⅱ-(24)、Ⅲ-(34)〉



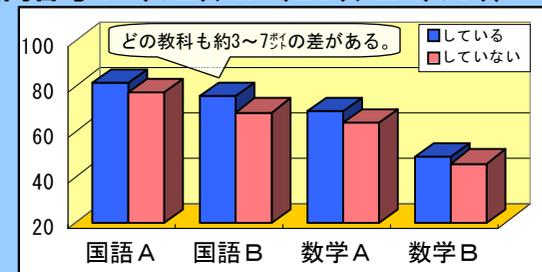
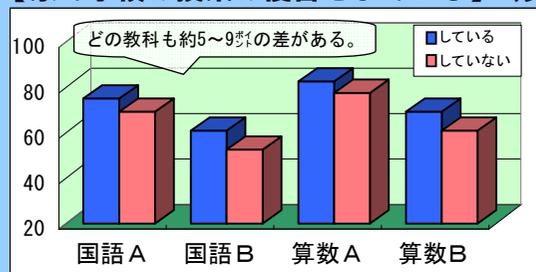
○家で自分で計画を立てて勉強をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【家で学校の宿題をしている】〈質問番号Ⅰ-(30)、Ⅱ-(25)、Ⅲ-(35)〉



○家で学校の宿題をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に小学生の方の差が大きく、国語が顕著である。

【家で学校の授業の復習をしている】〈質問番号Ⅰ-(32)、Ⅱ-(27)、Ⅲ-(37)〉



○家で学校の授業の復習をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

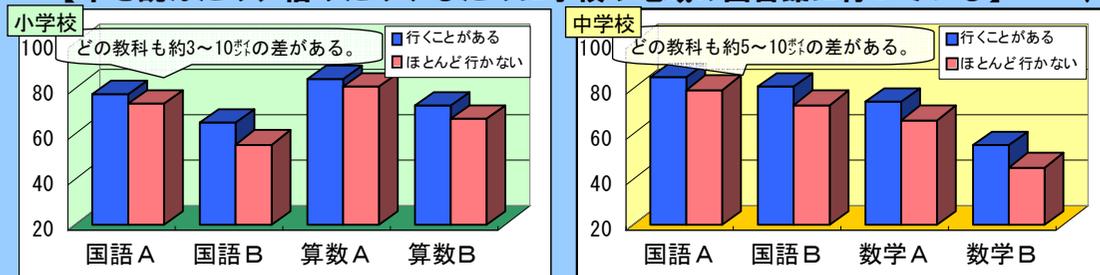
V 学習環境と学力調査との相関

2-(4) 読書習慣、地域社会への関心

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

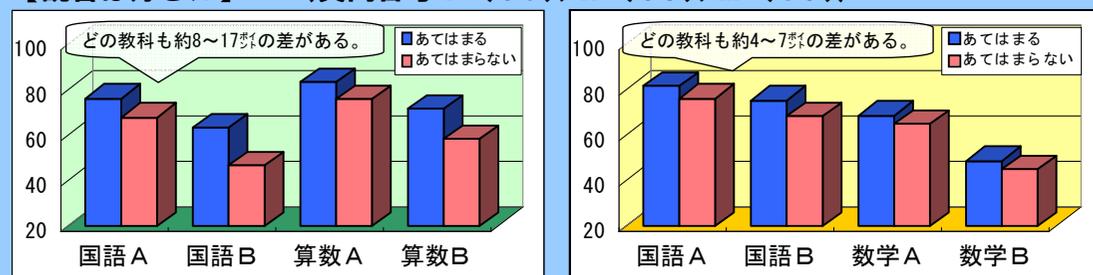
【資料16】

【本を読んだり、借りたりするために学校や地域の図書館に行っている】 < 質問番号 I-(21)、II-(19)、III-(29) >



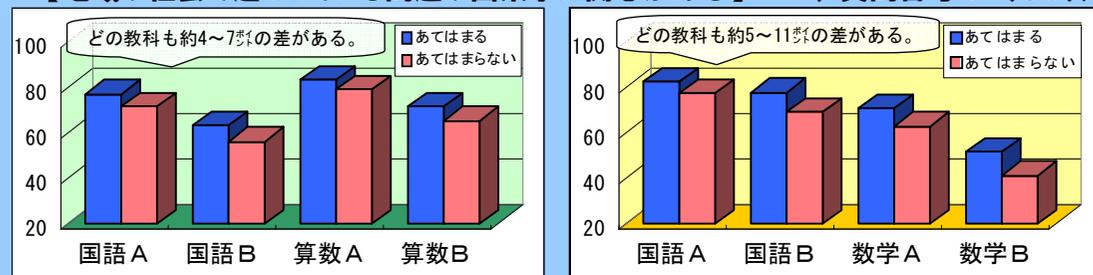
○**昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために学校や地域の図書館にどれくらい行ってますか**という質問に、「行くことがある」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【読書は好きだ】 < 質問番号 I-(56)、II-(55)、III-(65) >



○**読書は好きですか**という質問に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。特に、小学校の相関が顕著である。

【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある】 < 質問番号 I-(38)、II-(32)、III-(42) >



○**地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか**という質問に、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

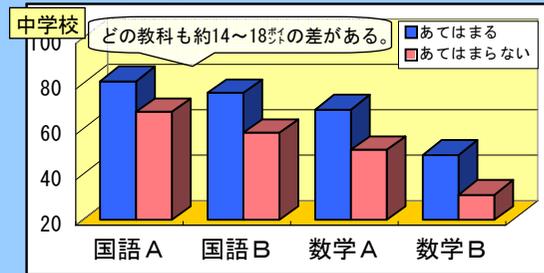
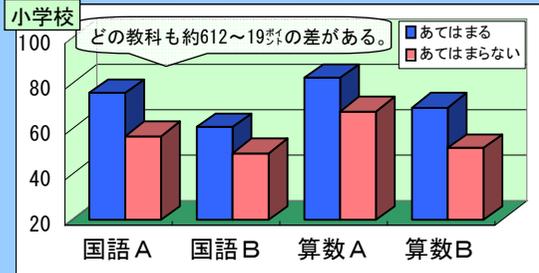
V 学習環境と学力調査との相関

2-(5) 授業への取り組み

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と
(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

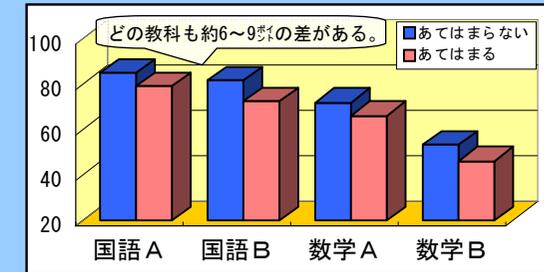
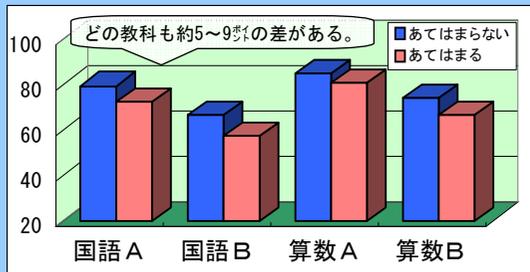
【資料17】

【授業で自分の考えを発表する機会がある】〈質問番号Ⅰ-(49)、Ⅱ-(47)、Ⅲ-(55)〉



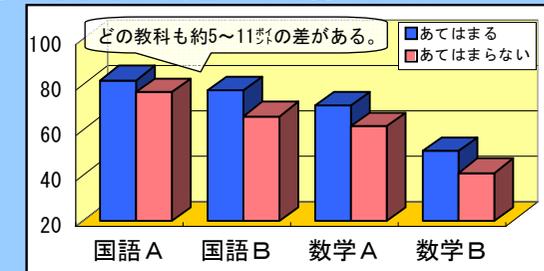
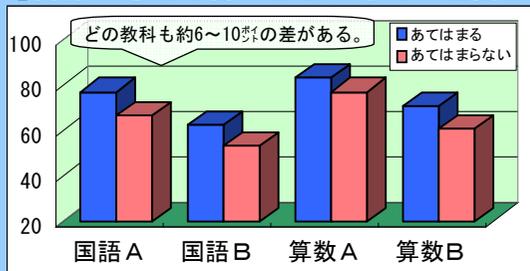
○授業で自分の考えを発表する機会があたえられていますかという質問に、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が平均正答率が高く、小・中学生共に相関が顕著である。

【授業で考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい】〈質問番号Ⅰ-(52)、Ⅱ-(51)、Ⅲ-(60)〉



○授業で自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しいですかという質問に、「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【自分の考えを書きとき、考えの理由が分かるように気をつけて書く】〈質問番号Ⅰ-(60)、Ⅱ-(59)、Ⅲ-(69)〉



○自分の考えを書きとき、考えの理由が分かるように気をつけて書きますかという質問に、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

VI 学校質問紙調査の結果

1 概要

- 学習指導については、児童生徒を主体とした学習展開、補充的な学習サポート、活用に関わる指導、全国学力・学習状況調査を活用した指導等に関して、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く、概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 読書、学び方、生き方等に関わる指導、保護者との連携等に関しても、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く、各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

2 結果

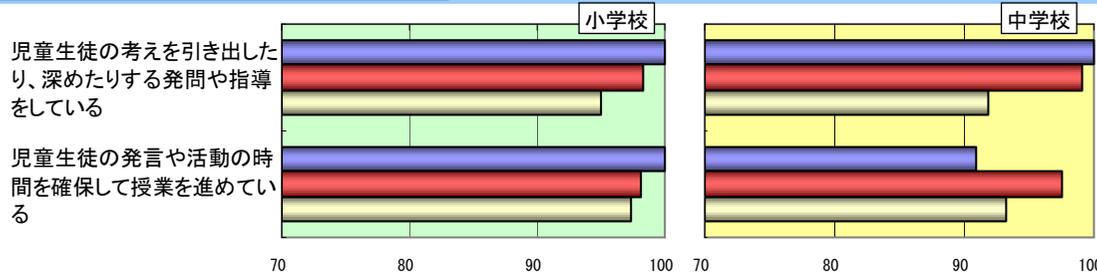
(1) 学習指導－1

※H24年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

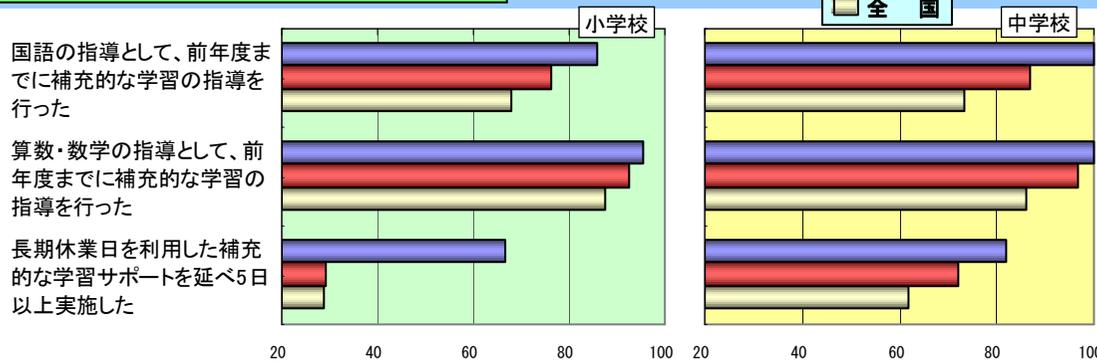
子ども主体の学習（小・中学校）

【資料18】



○子ども主体の授業についての各学校の意識が高い。児童生徒も約95%が「発表の機会が与えられている」「話し合う活動を行っている」と回答しており、子ども主体の学習指導が展開されていることが子どもたちにも実感されている。中学校については、取組の意識に差が見られる。

補充的な学習サポート（小・中学校）



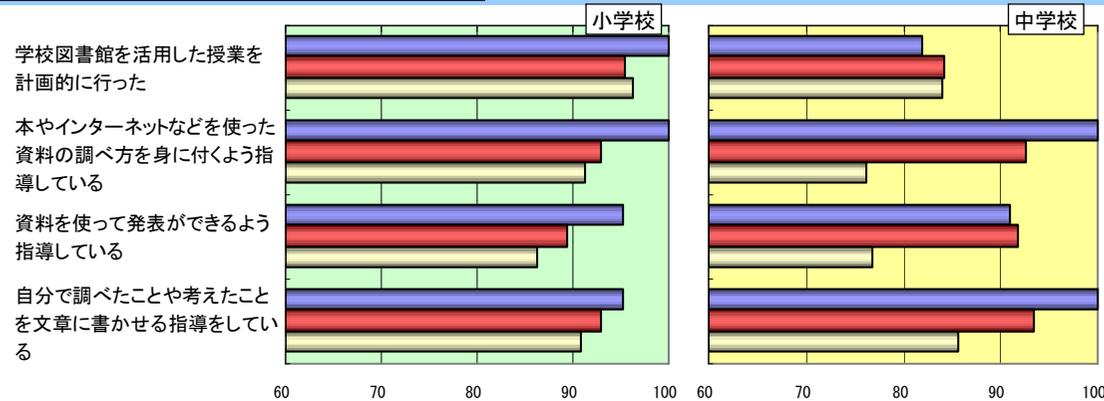
○各学校では、全国や県に比べて補充的な学習サポートを実施している割合が高く、個に応じたきめ細かな指導が展開されている。

VI 学校質問紙調査の結果

(1) 学習指導－2

※H24年度の状況について回答するもの

活用にかかわる指導（小・中学校）

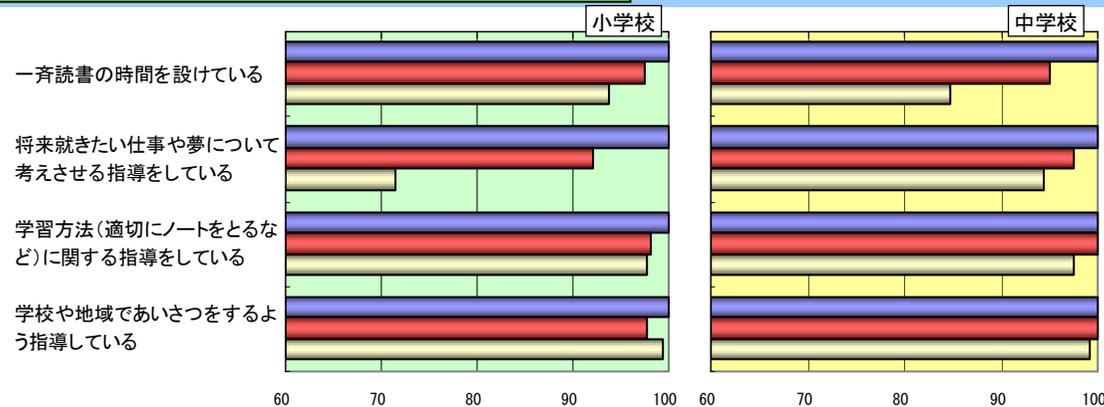


【資料19】

○知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことに、小・中学校共に意欲的である。子ども主体の学習指導の展開との相乗効果がB問題の成果に表れているものと思われる。図書館活用と資料活用については、中学校において指導の工夫改善を進めていく必要がある。

(2) 読書、学び方、生き方等指導

読書、学び方、生き方等の指導（小・中学校）



【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

【資料20】

○小学校において「将来の仕事や夢について考えさせる指導」が前年度に比べて伸びが見られる。学校の取組の意識に対して、児童生徒の意識も約83～96%が「読書好き」「夢・希望をもっている」と回答しており、読書指導やキャリア教育の成果がうかがえる。

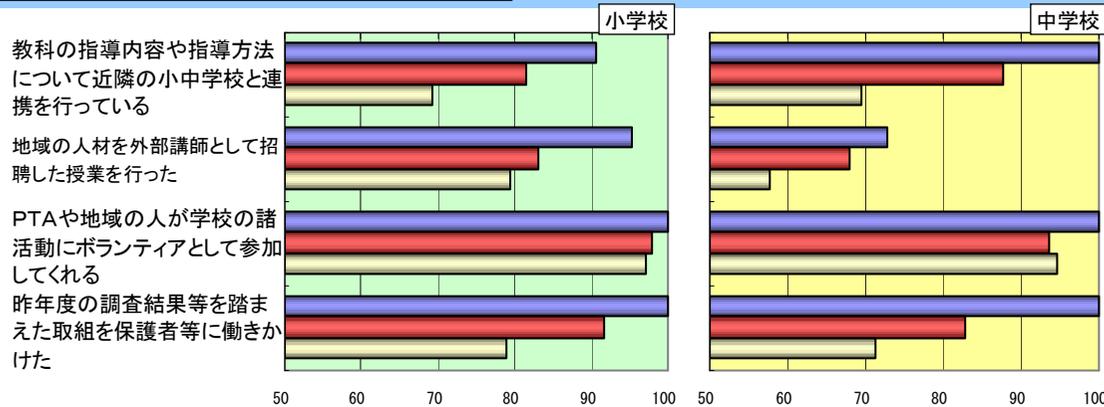
VI 学校質問紙調査の結果

(3) 交流と連携

※H24年度の状況について回答するもの

保護者や地域との連携（小・中学校）

【資料21】



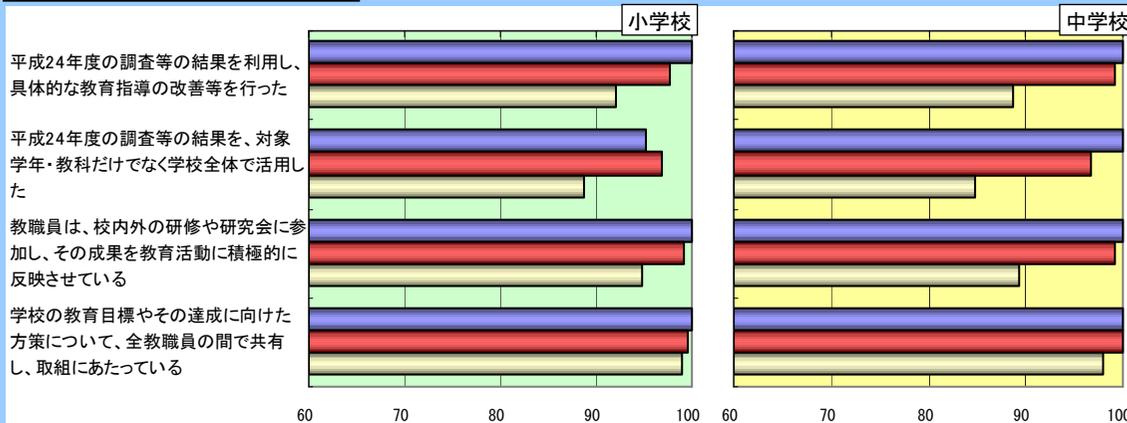
○各学校の取組は、ほとんどの項目で全国や県を上回っており、市教委が重点としている交流と連携を通して「複数の目で子どもを育てること」に対する積極的な取組姿勢が表れている。
○保護者や地域からの信頼と協力があって、児童生徒の安定した学習環境が構築されていることを再確認したい。

(4) 学校の研修体制

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

研修体制（小・中学校）

【資料22】



○各学校の取組は、全国や県を上回っており、研修に関するほとんどの質問項目で、肯定的な回答が100%である。
○調査の結果や研修の成果を授業改善に活用しようとする前向きな取組が、児童生徒の学力の維持につながっていると捉えている。